

平成 17 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況 (連結) 平成 16 年 7 月 14 日



上場会社名 小林製薬株式会社

(コード番号: 4967 東・大1部)

(URL <http://www.kobayashi.co.jp/>)

問合せ先 代表者 代表取締役社長 小林 豊

責任者 常務取締役 グループ統括本社本部長 田中 正昭 TEL:(06)6222-0084

1 第 1 四半期業績の概況の作成等に係る事項

財務諸表等の作成に際して準拠した基準 : (中間連結財務諸表作成基準)

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識方法 : 有

との相違の有無

(内容)

当第 1 四半期における棚卸資産の棚卸高は、実地棚卸を行わず、前連結会計年度末にかかわる実地棚卸高を基礎として、帳簿棚卸によって算定しています。

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有

連結 (新規) 2 社 (除外) 0 社 持分法 (新規) 0 社 (除外) 0 社

公認会計士又は監査法人による関与の状況 : 無

2 平成 17 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17 年 3 月期第 1 四半期	53,470	1.1	2,870	17.0	2,488	17.9	1,680	2.7
16 年 3 月期第 1 四半期	52,880		3,459		3,032		1,727	
(参考) 16 年 3 月期	211,670		16,123		14,127		6,677	

	1 株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
17 年 3 月期第 1 四半期	39	45		
16 年 3 月期第 1 四半期	61	37		
(参考) 16 年 3 月期	157	25		

(注) 売上高、営業利益などのパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

平成 15 年 11 月 20 日付けをもって株式分割 (1 株につき 1.5 株の割合で分割) を行っております。

株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の 16 年 3 月期第 1 四半期における 1 株当たり四半期純利益は 40.91 円です。

[経営成績 (連結) の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 1 四半期のわが国経済は、企業収益の改善や設備投資の増加などにより着実な回復を続けているものの、個人消費は持ち直しにとどまるなど依然不透明な状況で推移いたしました。

そうした状況の中で、当社グループは経営ポリシーである「創造と革新」の精神をフルに発揮し、新市場を創造する製品やサービスの提供により顧客の潜在ニーズを開拓すると同時に、既存の参入市場に対して新たな付加価値を付けた製品やサービスの提供に努めました。

その結果、当第 1 四半期の売上高は 53,470 百万円 (前年同期比 1.1% 増)、営業利益 2,870 百万円 (前年同期比 17.0% 減)、経常利益 2,488 百万円 (前年同期比 17.9% 減)、第 1 四半期純利益は 1,680 百万円 (前年同期比 2.7% 減) となりました。

主な事業の種類別セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

家庭用品製造販売事業

当事業におきましては、今春に 7 品目の新製品 (栄養補助食品は除く) を発売し、売上拡大に貢献しました。口腔衛生品・栄養補助食品は引き続き順調に推移しておりますが、競争が激しくなった衛生雑貨品や夏場商材の立ち上げが遅れた医薬品は苦戦しました。この結果、売上高は 20,618 百万円と前年同期に比べ 308 百万円 (1.5%) の減収となりました。また利益におきましては、今春新製品を中心に積極的な広告投資を実施したため営業利益は 2,680 百万円と前年同期に比べ 394 百万円 (12.8%) の減益となりました。なお、上海小林日化有限公司と小林製薬 (香港) 有限公司の子会社 2 社が当期より連結対象となっております。

家庭用品卸事業

当事業におきましては、主要顧客であるドラッグストアの消費税の総額表示による売上低迷や在庫圧縮対応により、売上拡大するには厳しい事業環境にありましたが、非連結関連会社への売上計上があり売上高は33,496百万円と前年同期に比べ876百万円(2.7%)の増収となりました。また利益におきましては、スケールメリットをいかしたメーカーからの商品の一括購入や販売管理費の削減といったコスト削減に努めましたが、営業利益は34百万円と前年同期に比べ13百万円の減益となりました。

医療関連事業

当事業におきましては、国内では整形外科関連分野への注力、海外では顧客リスト買収による顧客の囲い込みにより売上は順調に推移しております。しかし、円高により米国子会社の売上が目減りした影響から売上高は3,804百万円と前年同期に比べ88百万円(2.3%)の減収となりました。また利益におきましては、新商品の導入による人員増や販促費などの投資により営業利益は94百万円と前年同期に比べ183百万円(66.1%)の減益となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第1四半期	132,193	54,950	41.6	1,319 26
16年3月期第1四半期	127,741	50,506	39.6	1,794 03
(参考)16年3月期	128,326	54,454	42.4	1,307 16

(注) 平成15年11月20日付けをもって株式分割(1株につき1.5株の割合で分割)を行っております。株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の16年3月期第1四半期における1株当たり株主資本は1,196.02円です。

【連結キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	82	340	1,523	14,540
16年3月期第1四半期	488	236	2,594	15,882
(参考)16年3月期	6,971	2,358	4,574	17,663

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期の財務状態は以下のとおりです。

総資産は前連結会計年度末と比較して3,866百万円増加しましたが、株主資本は495百万円増加に留まったことから、株主資本比率は0.8ポイント減少いたしました。

増減の主なものは、流動資産では現金および預金が3,122百万円減少し、受取手形及び売掛金が5,426百万円増加しております。無形固定資産では米国子会社シールドヘルスケア社の顧客リスト買収などにより営業権が427百万円増加しております。流動負債では支払手形及び買掛金が5,499百万円増加しております。

(連結キャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、使用した資金は82百万円となりました。

これは、税金等調整前第1四半期純利益が3,171百万円ありましたが、法人税等の支払額が2,735百万円あったことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は340百万円となりました。

これは、営業権譲渡による収入が735百万円ありましたが、有形固定資産の取得469百万円や米国子会社の顧客リスト買収などがあったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は1,523百万円となりました。

これは、長期借入金の返済1,073百万円と配当金874百万円などによるものです。

3 平成17年3月期の連結業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

（注）金額は百万円未満を切り捨て

	予 想 売 上 高	予 想 経 常 利 益	予 想 当 期 純 利 益	1株当たり 予 想 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中 間 期	111,000	7,100	4,000	
通 期	218,000	14,500	7,400	174 36

[業績予想に関する定性的情報等]

当第1四半期につきましては若干当初計画を下回っておりますが、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、平成16年5月24日に公表いたしました中間期および通期の業績予想は修正しておりません。

上記の予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な不確定要素により実際の業績とは予想数値が異なる場合があります。